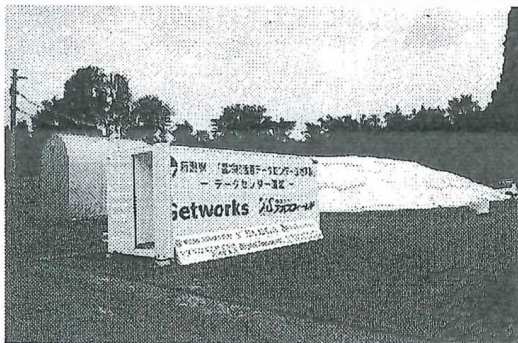


本格運転を開始

アオスフィールドら 雪冷熱データセンター

津南町中深見地内に整備された雪冷熱を活用するデータセンターが21日に本格的な運転を開始した。

シートを被覆して貯雪し、コンテナ型データセンター基（5トラック）に冷熱を供給する。通常の



雪を使ったデータセンター

代表企業にゲットワークス（さいたま市）、ドールコン（札幌市）、F・O・W・e・R Communications（東京都）を構成員とする企業体に委託した。また施設整備には新日本空調やマスプロ電気なども協力企業と

冷房設備と異なり、コンプレッサー等が不要のため約48%の電力量の削減が期待できるほか、二酸化炭素の排出も抑制するとしている。

昨年度に新潟県が、雪を活用したデータセンターを整備・運営する事業者を公募し、アオスフィールド（新潟市）を

して参画する。

本格運転開始にあわせて、同日には運転開始式が執り行われ、泉田裕彦新潟県知事や上村憲二津南町長らが出席。泉田知事は「データセンターは、

社会を支える基礎的インフラである。日本のデータセンターは都市部に集中し、電力量が掛かることが特徴。地方創生の観点からも、地方でデータを守り管理する人材を集

積することで、未来に可塑性が広がる事業である。ぜひ拡張していきたい」と期待を寄せた。上村町長は「雪を活用したシステムが具現化されたことが何より嬉し

い。雪の恵みを感じられる施設であり、感謝と御礼を申し上げる」と述べた。